

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	16-034	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Relation between age of first drinking and mental health and alcohol and drug disorders in adulthood: evidence from a 35-year cohort study.</p> <p>飲酒開始年齢とメンタル不全、アルコール・薬物乱用の関連：35年間の出生コホート研究</p>		
執筆者		
Newton-Howes G, Boden JM.		
掲載誌		
Addiction. 2016 Apr;111(4):637-44. doi: 10.1111/add.13230.		
キーワード		PMID
飲酒開始年齢、アルコール乱用、薬物乱用、出生コホート		26566814
要 旨		
<p>目的： 飲酒開始年齢が、アルコールをはじめとする薬物乱用や精神障害に影響するかについて、関連の強い両親の飲酒行動や家庭環境等の要因を考慮しながら検討する。</p> <p>方法： 対象者は、ニュージーランドのクリストチャーチにおける 1977 年出生コホート研究 (CHDS) の対象となった 1056 人 (男女約半数ずつ) で、最長 35 歳まで追跡された (最終時まで解析継続は 962 人)。飲酒開始年齢 4 階層 (5 歳未満、6-10 歳、11-12 歳、13 歳以上) と、15 歳以降のアルコール濫用・ニコチン依存・大麻依存・違法薬物濫用、大うつ病・不安障害 (16 歳から数年おきに計 6 回質問して評価) との関連を検討した。次に、両親の飲酒行動や家庭環境等の関連要因を調整した検討を加えた。</p> <p>結果： 早期の飲酒開始は、アルコール乱用・ニコチン依存・薬物乱用と有意に関連し、また大麻依存とも関連する傾向が認められたが、大うつ病・不安障害とは関連しなかった。ただし、両親の飲酒行動や家庭環境等の関連要因を調整すると、飲酒開始年齢とこれらの問題との関連は統計的に有意ではなくなった。</p> <p>結論： アルコールをはじめとする薬物乱用や精神障害は、飲酒開始年齢だけでなく、関連する社会経済的問題や家庭環境に影響されることが示唆された。</p>		